



児童・幼児は自転車運転時にヘルメットを着用しているか？



Why
道交法改正から4年経過
ヘルメット着用率は
向上したか？

平成20年6月1日より、改正道路交通法が施行され、13歳未満の児童や幼児を自転車に乗車させるときは、ヘルメットを着用させることが保護者の努力義務となった。

本紙では同じ年の5月、幼児・児童のヘルメット着用率について観察を実施し(2008年6月号参照)、19・4%の着用率だった。あれから4年が経過。平成23年の自転車乗用中の交通事故死傷者数は、15歳以下の子どもが2万6245人となり、10年前と比べると約3割減少した。

果たして実際に着用率は高まったのか、4年前と同じ時間・場所において児童・

幼児のヘルメット着用率を観察した。観察場所は、JR中央線・武蔵境駅南口の大型商業施設周辺の交差点2カ所。併せて近隣の駐輪場でも観察を実施した。



Advice

6歳未満同乗中の事故
4割が頭部に傷害
保護者は着用の徹底を

夕方の買い物時間帯にあたるため、自転車利用者は4年前同様多かった。駅南口の主要交差点は乗用車、営業車のほか路線バスが通過するため、車道は非常に混雑している。車道の路側帯が狭いため、自転車はやむを得ず歩道を走行するため、歩道および交差点は自転車と歩行者が混在する状況になっていた。

Q1
自転車に同乗している子どもの
自転車用ヘルメット着用率は
何%だったでしょうか？

A1 実際の観察から

★Q1の回答

ヘルメットを着用していた自転車は
82台中35台(42.7%)

幼児を同乗させた自転車の4年前の観察における着用率は21.7%であり、21ポイント上昇した。自転車乗車前、母親が子どもにヘルメットをかぶらせ、あごひもを締めてから乗車させる様子が何件も見られた。なかには自転車を降りた後もヘルメットを装着させたまま買い物に出かける親子もいた。

非着用自転車では、買い物かごにヘルメットがあるにもかかわらず装着させていなかったり、子どもがかぶる最中に自転車を発進させてしまったりするケースも。チャイルドシートを設置せず、子どもを荷台にまたがらせて走行していた自転車もあった。2人乗車では年齢の低い幼児に優先してヘルメットを着用させている自転車が散見された。

●子どもの自転車用ヘルメットの着用状況
＜幼児を同乗させた自転車(人)＞

	着用	非着用
幼児1人同乗	33 (40.3%)	45 (54.9%)
幼児2人以上同乗	2 (2.4%)	2 (2.4%)
小計	35 (42.7%) 2008年:21.7%	47 (57.3%) 2008年:78.3%

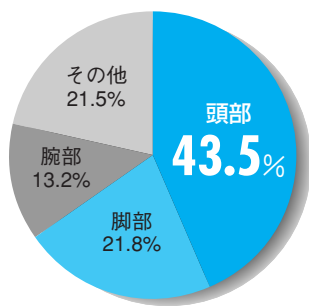


子どもを背負って自転車を運転。子どもは寝てしまっている



子どもは荷台にまたがり、保護者の腰をつかんでいる

●6歳未満同乗中の損傷部位別
交通事故死傷者数 (構成率・平成23年)



※出典：警察庁資料

自転車乗用中の損傷部位別死傷者数をみると、6歳未満同乗中で最も多いのが頭部(43・5%)となっており、重大事故につながる可能性が高い頭部の傷害は大きな割合を占めている。4年前の観察と比較して、自転車用ヘルメットの着用率は上がっているものの、まだ非着用は7割にのぼっていることを考えると、浸

こうした混雑した道路環境のなか、自転車は歩行者を避けながら運転する必要がある。そのためか、幼児を同乗させた自転車のほとんどは1人同乗。運転が難しくなる2人同乗はほとんど見られなかった。一方で、乳児と見られる小さい子どもを背負ったり、抱えたりしたまま自転車を運転しているケースは散見された。幼児・児童が自転車を単独で運転する際は、ヘルメット着用に対する意識の差が明確だった。母親と一緒に走行している場合の多くはヘルメットを着用しており、着用方法もしっかり守られていた。友達同士、または一人で自転車を運転している場合はヘルメットを着用しない、または着用していても間違った着用(あごひもが緩んでいる、ヘルメットがズレているなど)をしていた。

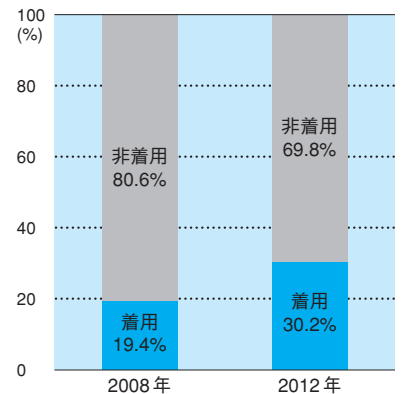


単独で走行する児童。あごひもが緩みヘルメットが後ろにずれている

Q2

自転車を単独で運転する児童・
幼児のヘルメット着用率は何%
でしょうか？

●児童・幼児の自転車用ヘルメット
着用率の変化(2008年と2012年の比較)



※児童(6～12歳)、幼児(5歳以下)の判断は観察者の見解による

透しているとは言いがたい。保護者は子どもにも頭部の傷害が重大事故につながる点をきちんと伝え、かつ、万が一、自転車に乗っているお子様が事故にあった時に、頭部の被害を軽減するためにも、自転車で出かける時は、子どもがヘルメットを正しく着用しているか確認していくべきだ。

●子どもの自転車用ヘルメットの着用状況
＜児童・幼児が運転する自転車(人)＞

	着用	非着用
幼児	3 (2.5%)	1 (0.8%)
児童	23 (19.2%)	93 (77.5%)
小計	26 (21.7%) 2008年:15.2%	94 (78.3%) 2008年:84.8%



単独で走行する児童・幼児はヘルメット非着用が多かった

A2

実際の観察から

★Q2の回答

ヘルメットを着用していた
児童・幼児は120台中
26台(21・7%)

ヘルメットを着用している児童は全体の2割。4年前の観察では15・2%であり、着用率は上昇しているが微増にとどまった。単独で自転車を運転している児童のうち、高学年になるほど着用率が高い、また男子よりも女子のヘルメット着用率が高い印象を受けた。ヘルメット非着用児童においては、車道を走行する、歩道を高速で走るといった危険な運転が散見された。また、高学年の児童になると、体格に合わない大人用の自転車を無理して運転している場合もしばしば見受けられた。